

2011.3.11——あの時まで、私たちは何をすべきであったのか。

とも

ドキュメンタリー映画

灯り続けた 街の明かり

みちのくの医師の信念

【ナビゲーター】山本一力 【ナレーション】唐橋ユミ

出演 後藤康文(岩手県宮古市 後藤医院院長)

【企画】瀧川徹夫 【プロデューサー】永井正夫 / 瀧川徹夫 / 稲葉正治 / 和田倉和利 【構成・監督】水元泰嗣

【音楽】姫神 / 星吉紀 【編集】熱海鋼一 【撮影】瀧川龍 【録音】高橋義照 【整音】瀧川徹夫 【音響効果】サウンドボックス / 倉橋静男 【コーディネーター】小川清耕(宮古市) / 越戸國雄(盛岡市) 【監修】ジャン・ユンカーマン

【協力】宮古市 / 東宝スタジオ / 角川大映スタジオ / ビクチャーエレメント / 日映美術 / NPO法人健康福祉実践協会 / 早稲田大学安藤益平研究室 / 早稲田大学・東宝芸術科学センター / 映画「灯り続けた街の明かり」製作支援の会

【協賛】岩手中・高等学校 石椏同窓会 / 東京石椏同窓会 【助成】文化芸術振興費補助金

2014年 / 日本 / 45分 / カラー / ビスタサイズ ©2014 永井プロジェクト / シネバザール / Digital Sound Design SEGAWA



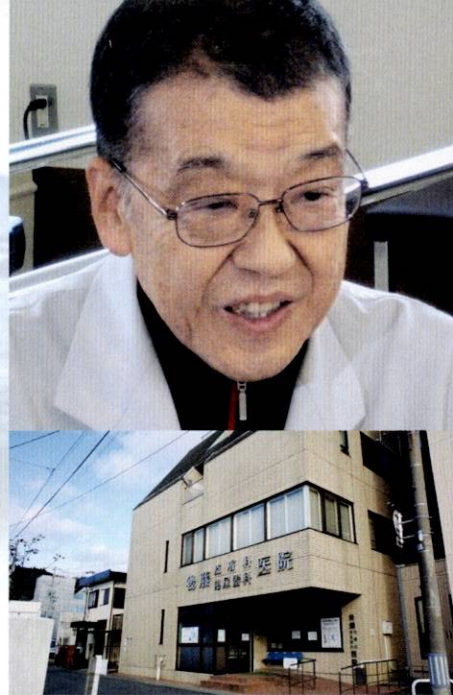
デザイン: 山田マリエ



岩手・宮城・福島の東北三県を中心に、大きな被害をもたらした東日本大震災。津波の猛威は、「想定外」の自然現象として片付けるにはあまりに甚大な被害を沿岸部各地にもたらしました。あれから3年。「あの日私たちには何ができたのか」、遡れば「あの日以前にいかなる備えをするべきだったのか」——自然災害大国・日本の防災対策において、決して風化させてはならない教訓とは？

岩手県宮古市の開業医・後藤康文医師は、過去の津波被害に学び、病院を震度7の耐震設計に、また20mの津波まで耐えられる4階建ての防災ビルとして建設していました。重油タンクと給水タンクに加え、屋上に自家発電装置をも設置していたのです。街中が停電と断水にみまわれ、市庁舎の機能も失われていたあの日の混乱の中で、後藤医院は明かりを灯し続けて人々に安心を与え、200名近くを受け入れる避難所としての機能を果たし、震災翌日から透析医療を再開することができました。

この事実を広く紹介するとともに、世界各地の水害危険地域における防災と医療対策の一助になれば——そんな思いで綴られた映像ドキュメンタリーです。



「歴史や経験から学んだことを風化させてはいけない」 ——宮古市・後藤医師の防災への信念を今、世界へ。

【ナビゲーター】山本一力

1948年高知県出身。東京都立世田谷工業高校電子科卒業後、様々な職を経て、1997年「蒼龍」でオール讀物新人賞を受賞してデビュー。2002年、『あかね空』（文藝春秋）で第126回直木賞を受賞。著書に『大川わたり』（祥伝社）、『背負い富士』（文藝春秋）、『押しぐれ』（朝日新聞社）、『たいこん』（光文社）、『辰巳八景』（新潮社）、『ほうき星』（角川書店）『ジョン・マン』（講談社）、『おたふく』（文藝春秋）他多数。また『にほん風景物語』（BS朝日）などテレビにも出演中。

【ナレーション】唐橋ユミ

1974年福島県喜多方市出身、フリーキャスター。1999年「テレビユー福島」報道局勤務。夕方のニュース番組キャスターなどを務める。退社後「サンデーモーニング」（TBSテレビ）、「ヒットの秘密」（テレビ東京）、「ドコモ団塊倶楽部」（文化放送）など、多数の番組で活躍中、メガネのトレードマークも有名。着付講師や利き酒師の資格も持ち、現在「きたかた大使」も務めている。



とも 灯り続けた 街の明かり みちのくの医師の信念

上映スケジュール

8月28日(水) 陸前高田市コミュニティホール	13:30 灯り 14:30 おも	9月2日(月) あえりあ遠野	18:30 灯り 19:30 おも
8月30日(金) 大船渡市市民会館	18:30 灯り 19:30 おも	9月3日(火) 北上市文化交流センター	18:30 灯り 19:30 おも
9月1日(日) 釜石情報交流センター	15:00 灯り 16:00 おも	9月4日(水) 花巻市文化会館	14:30 灯り 15:30 おも

*灯り=『灯り続けた街の明かり』(45分) おも=『おもかげ復元師』(52分) *開場30分前/入場無料/合間にトイレ休憩あり

【主催】おもかげ復元師製作委員会 【連絡先】Digital Sound Design SEGAWA e-mail: tsegawa1@mac.com